

複合動詞「～こむ」について

—日中対訳の観点から—

李 潔

【キーワード】

複合動詞、こむ、日中対訳

【要旨】

日本語の特徴として、複合動詞は、豊かな表現力を有しているため、日本人に日常的に多く使われている。しかし、日本語を第二言語とする学習者にとっては、さまざまな意味用法を持つ複合動詞の理解および使用は困難である。「動詞+こむ」は、国立研究所の調査（1987）によれば、結合する前項動詞の数が 231 語で、語彙的複合動詞の中では第1位である（姫野 1999）。しかし、複合動詞「～こむ」は日本語教育の中で一つの文法項目として扱われることはほとんどなく、学習者はそれに関する知識が不十分なまま上級段階に進んでしまい、「こむ」を正確に使用する際に困惑することになってしまう。

本稿では、多数の複合動詞のうち、数量的には上位に挙がり、母語話者によく使われ、学習者にとって習得困難な項目になる複合動詞「～こむ」を取り上げ、その意味と構造について考察した。日本語の「～こむ」を中国語に訳す時の表現の仕方、または中国語訳との対照研究を行った。中国人学習者を対象にして、複合動詞「～こむ」の習得方法と教授法への考察を深めることを目的とした。

1. はじめに

日本語の特徴として、複合動詞は、豊かな表現力を有しているため、日本人に日常的に多く使われている。しかし、日本語を第二言語とする学習者にとって、さまざまな意味用法を持つ複合動詞の理解および使用は困難である。

そこで、本稿は多数の複合動詞のうち、数量的には上位に挙がり、母語話者によく使われ、学習者にとって習得困難な項目になる複合動詞「～こむ」を取り上げ、その意味と構造について考察していく。また、日本語の「～こむ」を中国語に訳す時はどのように表現するか、その中国語訳と「～こむ」の意味構造を対照することによって、中国人学習者の母語干渉を考察していきたい。したがって本稿は、中国人学習者を対象にして、

複合動詞「～こむ」の習得方法と教授法への考察を深めることを目的とする。

複合動詞の中には、(1a)～(1d)のように「内部への移動」を表す「～こむ」がある。

- (1a) 地面にくいを打ちこむ。
- (1b) トンボが部屋に飛びこんできた。
- (1c) 大勢の人を狭い部屋にぎゅうぎゅう押しこむ。
- (1d) すきま風が寝室に吹きこむ。

しかし、(2)～(4)のようにすべての「～こむ」は「内部移動」という意味を表すわけではない。

- (2) 気分が悪くなり道端にかがみこむ。
- (3) これを聞いて考えこんでしまった。
- (4) 走りこんでスタミナをつける。

中国語でも二つの動詞を結合して一つの動詞として使うことができるが、両言語の複合動詞の結合様式、意味などは一致しないので、一対一で対応するというわけではない。

ここで注目したいのは、「～こむ」という複合動詞は、「内部移動」という意味を表すことが多いので、中国語の「～進」「～入」に訳される場合が一般的だということである。ただし、上記の(1a)～(1d)と(2)～(4)のように、対応する場合と、対応しない場合がある。この点を考えると、中国人学習者にとって、複合動詞「～こむ」の意味を正しく理解したり、使用したりすることは難しい、と予想される。

そこで本稿は、複合動詞「～こむ」を取り上げ、中国語の表現と、どのような対応関係になっているか、それぞれの日中対訳の意味用法と文法構造を明らかにする。その上で、中国人日本語学習者の習得状況、および母語干渉の影響や原因は何か、どのようにすれば学習者にとってより良い効率的な勉強法となるのか、等を考えていく。

2. 先行研究

2-1 姫野 (1999)

一般的に語構成においては、自動詞は自動詞と、他動詞は他動詞と結びつきやすい、という傾向が見られる。しかし、「～こむ」は、自動詞、他動詞の区別なく自由に結合する。この自由度が多く複合動詞を作り出す一因になっている。「～こむ」は、普通「内部へ」という意味を持つとされている。しかし、中には、単なる「内部移動」だけでは済まされぬニュアンスを含む場合がある。

例：・家に上がりこむ (侵入して動かないという感じを伴う)

- ・人を家に連れこむ (無理にという感じを伴う)
- ・家に泊まりこむ (物々しい感じを伴う)
- ・物を水につけこむ (全体をどっぶり入れるという感じを伴う)

姫野 (1999) は、「～こむ」の用法を「内部移動」(＝主体あるいは対象がある領域の中へ移動することを表す)と「程度進行」(＝動作・作用の進行により程度が高まりある密度の濃い状態に達することを表す)の二つに大別している。そして、「内部移動」は「移動先」を基準として7グループに、「程度進行」は「進行内容」を基準として3グループに分類されている。

【内部移動】

- ①「閉じた空間への移動」例：上がりこむ、駆けこむ、運びこむ、投げこむ、など
- ②「固体の中への移動」例：食いこむ、擦りこむ、埋めこむ、植えこむ、など
- ③「流動体の中への移動」例：溶けこむ、漬けこむ、沈めこむ、など
- ④「隙間のある集合体または組織体の中への移動」例：しみこむ、編みこむ、など
- ⑤「動く取り囲み体への移動」例：包みこむ、丸めこむ、など
- ⑥「自己内部への移動 (自己凝縮体)」例：折れこむ、絞りこむ、など
- ⑦「その他」例：のぞきこむ、見こむ、など

【程度進行】

- ①「固着化」例：眠りこむ、黙りこむ、考えこむ、など
- ②「濃密化」例：老いこむ、冷えこむ、咳きこむ、など
- ③「累積化」例：走りこむ、使いこむ、磨きこむ、など

2-2 松田 (2004)

松田 (2004) は、姫野 (1999) の研究成果を踏まえた上で、認知意味論に基づき、「～こむ」の意味構造を検討している。そこでは、「～こむ」のコア図を設定している。

図1において、矢印[α]の部分は領域 X に入ることの意味的イメージを、矢印[β]の部分は領域 Y に入ることの意味的イメージを表している。コア図式は、言葉の具体的な意味ではなく、その根底にある意味的イメージである。「～こむ」は「内部移動」([α])と「その場への固着」([β])の二つの意味的イメージをその根底に併せ持っている、と考えられる。

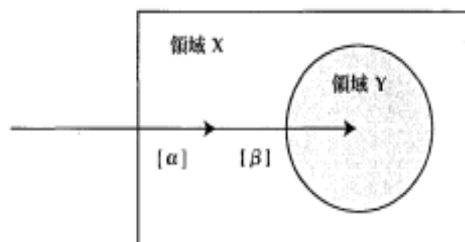


図1 「～こむ」のコア図式

松田は「～こむ」の意味タイプを V1 と V2 の意味関係に着目し、次の表 2 のように 4 タイプに分類している。

二格を伴う「～こむ」 (姫野による「内部移動」)		二格を伴わない「～こむ」 (姫野による「程度進行」)	
A タイプ	B タイプ	C タイプ	D タイプ
V1 は「内部移動」 を含意しない	V1 自体が「内部移動」 を含意する	V1 が示す状態への 変化とその状態への 固着	V1 の反復行為によ り生じる状態変化 (目標に向けて)
例) 飛びこむ 呼びこむ	例) 入りこむ 植えこむ	例) 冷えこむ 眠りこむ	例) 走りこむ

表 2 松田 (2004) による分類

本稿は、先行研究に基づいて複合動詞「～こむ」の意味と構造を考察した上で、中国人日本語学習者を対象にした調査や、中国語との対照分析を行う。その結果は、学習者にとって複合動詞の習得に役に立ち、教育者にとって学習者の状況を把握しながら、より良い教授法を作成できる、ということに活かされるだろう。

3. 考察対象

複合動詞「～こむ」を選定するために、姫野 (1999 : 63-72) の複合動詞「～こむ」リストを参考にする。姫野 (1999) では、「～こむ」の用法を「内部移動」(=主体あるいは対象がある領域の中へ移動することを表す) と「程度進行」(=動作・作用の進行により程度が高まりある密度の濃い状態に達することを表す) の二つに大別している。そして、「内部移動」は「移動先」を基準として 7 グループに、「程度進行」は「進行内容」を基準として 3 グループに分類されている。

そこでまず、すべての「～こむ」を中国語に訳した。中国語に訳した結果として、3 種類に分けられる。

- I. 中国語の「～进」「～入」と「～深」「～沉」と対応できる複合動詞「～こむ」
- II. 中国語訳があるが、特に対応関係がなく別の単語で表現するもの
- III. 日中辞書に載っておらず、【現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)】にも例文を見つげられない「～こむ」

次の章では、以上の I と II の複合動詞「～こむ」について、中国語との対訳、相違点または意味構造などの特徴を考察する。

4. 複合動詞「～こむ」と中国語訳の対応関係

4.1 「～こむ」について

『新日汉辞典』による「～こむ」について

「接尾」(接动词连用形后) (= 「接尾詞」(動詞の連用形につける))

i) 表示进入的意思 (= 「中に入る」という意味を表す)

例： 風が吹き^{風吹きこむ}こむ／风吹进来。 川へ飛び^{飛びこむ 川 中}こむ／跳进河里。

対応関係： 吹き こむ ↓ ↓ 吹 进来

飛び こむ ↓ ↓ 跳 进

ii) 表示某种状态的继续和加深 (= ある状態が持続するまたは深まることを表す)

例： 考え^{考えこむ}こむ／沉思。 黙り^{黙りこむ}こむ／沉默。

対応関係： 考え こむ ↓ ↓ 沉 思

黙り こむ ↓ ↓ 沉 黙

4-2 「～こむ」と「～进[jìn] (ジン)」「～入[rù] (ルウ)」

『中日辞典』による「～进」について

「方向補語“～进”の用法」

動詞の後に用いて、人や事物が動作に伴って外から内へ入る意味を表す。

①動作の受け手や行い手を表す名詞を目的語にとる形で。

例： 从外边跑进几个小男孩／外から男の子たちが何人か駆け^{からそと 駆けこむ 何人男の子}込んだ。

『中日辞典』による「～入」について

①入る；入れる。【語法】現代語において限られた言い方でのみ用いられる。「入る」に当たるのは“～進”。

流れる入る
例：流入／流れて入る。

上記のように、「中に入る」という意味を表す時、「～進」の①と、「～入」の①に対応する。「～進」「～入」は基本的に内部移動を表すため、それに対応する中国語表現として「～進」「～入」が多用される。

4-3 「～こむ」と「沉[chén]（チェン）～」「深[shēn]（シェン）～」

『中日辞典』による「沉～」について

③（程度が）甚だしい

眠るとても甚だしい
例：睡得 很 沉 / ぐっすり眠りこんでいる。

『中日辞典』による「深～」について

⑧よく、深く；たいへん、大いに

わたしたいへん信じるきみ必ずくる
例：我 深 信 你 一定会来的。／君は必ず来るものと思い込んでいた。

上記のように、「状態の持続または深まる」という意味を表す時、「沉～」の③と、「深～」の⑧に対応する。「思い込む」「考え込む」「眠り込む」は、深く信じる、深く考える、深い睡眠状態に入るという意味で、同じ「深まる」「ある状態に落ちる」という意味を持つ「沉～」「深～」と対応している。中国語では、「深信」「沉思」「沉睡」と訳される。

4-4 仮説

以上の分析から考えると、以下のような仮説を立てられる。

「内部移動」の意味を持つ「～こむ」は中国語の「～進」「～入」と対応する。

「程度進行」の意味を持つ「～こむ」は中国語の「～深」「～沉」と対応する。

4-5 中国語訳を利用した「～こむ」再分類

本節では、中国語訳を利用した「～こむ」の再分類を行う。姫野（1999）の分類を踏まえた上で、「～こむすべての「～こむ」を中国語に訳し、それに基づいて、日中対訳の

視点から「～こむ」を再分類した。その結果をもとに、4-4で提出した仮説を検証する。

姫野による「内部移動」		姫野による「程度進行」		
Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ	Dタイプ	Eタイプ
「～進」「～入」と対応する	「～進」「～入」と対応しない	「深～」「沉～」と対応する	「深～」「沉～」と対応しない	
上記のⅠ	上記のⅡ	上記のⅠ	上記のⅡ	
主体あるいは対象がある領域の中へ移動し、移動先が物理的な場所であり、ある空間や固体、流動体などという具体的な動作を表現する。	物理的移動のほかに、より抽象的な領域への移動も表現する。「こむ」は前項動詞の意味を強調し、強意を表現する。	人間の心理作用、思考作用などに関する、抽象化された場所に移動しそのまま固着する。	状態の変化を表すものであり、その変化の程度が進むことを表現する。	繰り返しのきく、人間の意志的行為を表すという反復行為により生じる状態変化（目標に向けて）。
例) 飛びこむ 駆けこむ 流れこむ	例) 倒れこむ もつれこむ 聞きこむ	例) 眠りこむ 考えこむ 信じこむ	例) 気負いこむ 冷えこむ 老いこむ	例) 走りこむ 洗いこむ 磨きこむ

表4 姫野(1999)と筆者の分類の対照

4-5-1 Aタイプ

このタイプの「～こむ」は、典型的な内部移動を表す。一方、中国語の「～進」「～入」も基本的な意味は「中に入る」を表すため、それに対応する中国語表現として「～進」「～入」が多用される。つまり、「～進」「～入」は典型的な内部移動を表す「～こむ」にしか対応しない。

「～進」「～入」は、前項動詞が移動の様態、手段、付随状況を表し、後項動詞「こむ」が内部移動を表す、というタイプの複合動詞「～こむ」に対応するのである。主体あるいは対象がある領域の中へ移動し、移動先が物理的な場所であり、ある空間や固体、流動体などという具体的な動きを表現する。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

- (5) 警察署のトイレに駆け込み、朝食べたものを吐き戻した。(『無伴奏』)

訳文：跑进警察局，早上吃的东西都吐了出来。

上記の例に示されるように、Aタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の方向補語とし

での「～進」「～入」と対応している。Aタイプの前項動詞と「こむ」の関係を見ると、大部分の複合動詞は「～して入る（入れる）」「～しながら入る（入れる）」「～するように入ると入る（入れる）」と言い換えることができる。

例えば、(5)の「駆け込む」について、前項動詞は単純動詞で「駆ける」という意味を表し、「こむ」の部分は「目的語の中に入る」という意味補充という役割となる。一方、中国語訳の「跑进」を見ると、前項詞の「跑」は「走る」という意味で、後項詞の「进」は「目的語の中に入る」という意味である。

4-5-2 Bタイプ

このタイプの「～こむ」は、内部移動に含まれている。ただし、Aタイプと比べると、物理的移動のほかに、より抽象的な領域への移動を表現する。中国語表現としては、「～進」「～入」で表現できない例が多い。つまり、「～進」「～入」は抽象的な内部移動を表す「～こむ」に対応しないのである。Bタイプでは、主体あるいは対象がある領域の中へ移動し、移動先が抽象的場所であり、「こむ」は前項動詞の意味を強調して、強意を表現する。

ここでは、「こむ」を含む複合動詞だけでなく、共起する修飾語・副詞、前後の文脈または全体的な場面から分析していく必要がある。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

(6) ベッドに倒れ込んだ私は、そのまま眠ってしまった。

(『大列車強盗の痛快一代記』)

訳文：在床上倒下的我，就那样睡着了。

上記の例に示されるように、Bタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の特定の単語に対応しない。日本語の「こむ」は前項動詞の意味を強調する役割として働く一方、中国語もそれぞれに強意を表す修飾語を加えることによって、全体的に日本語と同じ意味を表現することができるようになっている。

例えば、(6)の「倒れ込む」は、ぼったりと倒れることを表す。立っていられずに単に「倒れる」ことをより強く表した言い方である。「倒れる」は中国語に訳すと「倒」であるが、目的めがけて動作するという複合動詞「倒れ込む」は、「倒下」と訳すと、さらにニュアンスが近づく。この場合の「下」は「倒」を補助し、「倒れてなかなか立ち上がらない」「倒れてそのまま動かない」という意味を表現する。つまり、「倒れ込む」は「倒下」と、「倒れ」は「倒」と意味的に対応するが、「こむ」は「下」と意味的に対応するわけではない。ただし、同じニュアンスを表すため、「倒れ込む」の「こむ」と、「倒下」の「下」は、文の中で同じ働きをしていると言えるだろう。

4-5-3 Cタイプ

このタイプの「～こむ」は、程度進行に属し、抽象化された場所に移動して、そのまま固着することを表す。一方、中国語の「深～」「沉～」も基本的な意味は「状態の持続または深まる」を表すため、それに対応する中国語表現として「深～」「沉～」が多用される。

「深～」「沉～」は、前項動詞が事柄の変化を表し、後項動詞「こむ」が程度進行を表す、というタイプの複合動詞「～こむ」に対応するのである。主に人間の心理作用、思考作用などに関して、抽象化された場所に移動して、そのまま固着することを表す。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

- (7) 部屋は真っ暗で、クリッサは柔らかいベッドの中で眠りこんでいた。(『go now』)
訳文：房间很黑，Crissa 在柔软的床上沉睡着。

上記の例に示されるように、Cタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の修飾語としての「深～」「沉～」と対応している。

例えば、(7)の「眠り込む」については、前項動詞は単純に睡眠状態を表し、「こむ」の部分は「よく寝入る。ぐっすり眠る」という意味補充という役割となる。一方、中国語訳の「沉睡」を見ると、主部動詞の「睡」は「眠る」という意味で、補語の「沉」が付くことによって、「深い眠りに落ちてしまう」という意味を表現できる。

4-5-4 Dタイプ

このタイプの「～こむ」は、程度進行に含まれる。ただし、Cタイプと比べると、抽象化された場所に移動して、そのまま固着する、ということのほかに、状態の変化またはその変化の程度が進むことを表現する。中国語表現としては、「深～」「沉～」で表現できない例が多い。

生理的な変化や自然現象の変化を表すものが多く、状態の変化を表すものであり、「こむ」はその変化の程度が進むことを表している。ここでは、強い程度を表す修飾語を伴うことが多いので、「こむ」を含む複合動詞だけでなく、共起する修飾語・副詞、前後の文脈または全体的な場面から分析していく必要がある。その具体的な用例は、以下のようなものがある。

- (8) 出発する時になって初めて、父が急に老け込んだことに気づいた。
(『死・ふたたび』)

訳文：到了出发之前才第一次发觉，父亲突然衰老了许多。

上記の例に示されるように、Dタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の特定の単語に対応しない。この点については、Bタイプと同様である。日本語の「こむ」は前項動詞

の意味を強調する役割として働く一方、中国語もそれぞれに強意を表す修飾語を加えることによって、全体的に日本語と同じ意味を表現することができるようになっている。

例えば、(8)の「老け込む」は、年齢を重ねて老いることを表す。単純動詞の「老ける」より、「すっかり老けている」という強く表した言い方である。「老ける」は中国語で「老」であるが、より強いニュアンスの「老け込む」は、「衰老」に訳すと、さらにニュアンスが近づく。この場合の「衰」は「老」を修飾し、「すっかり老ける」「めっきり老ける」という意味を表現する。つまり、「老け込む」は「衰老」「老け」は「老」と意味的に対応するが、「こむ」は「衰」と意味的に対応するわけではない。ただし、同じニュアンスを表すため、「老け込む」の「こむ」と、「衰老」の「衰」は、文の中で同じ働きをしていると言えるだろう。

4-5-5 Eタイプ

このタイプの「～こむ」は、程度進行に含まれて、累積の意味を表すものである。このグループの前項動詞は、繰り返しの効く、人間の意志的行為を表している。「こむ」は、時間をかけてその行為を重ね(累積し)、人の技や対象とする事柄の質を向上させるというものである。Dタイプと同じく、中国語表現としては「深～」「沉～」で表現できない例が多い。

目標に向けて人間の意志的行為を表す、という反復または練習行為により生じる状態変化を表現する。中国語に訳す時、「練習のため；反復；十分に」などを表す「练习、反復、不断、充分」などを使って訳すことが多い。

ここでは、反復行為を表すため、「こむ」を含む複合動詞だけでなく、前後の文脈または全体的な場面から分析し、特に動詞に伴って「こむ」の意味を補助する修飾語・副詞などに注目していきたいと思う。その具体的用例は、以下のようなものがある。

(9) 20代の日々、一周400メートルのトラックで走り込むことが不可欠です。

(『がなり流』)

訳文：在20几岁的日子，一圈400米的跑道上的拼命(练习)跑步是必不可少的。

上記の例に示されるように、Eタイプの複合動詞「～こむ」は中国語の特定の単語に対応しないが、ほとんど「練習のため；反復；十分に」などを表すため、中国語に訳す時は、「练习、反復、充分」などの副詞または補語を使って、全体的に日本語と同じ意味を表現することができるようになっている。

例えば、(9)の「走り込む」は、練習で十分に走っておくことを表す。「毎日」という副詞を加えれば単純動詞「走る」も繰り返し行われることを表すことができるが、「走り込む」にはある「目標」があって走っている、というニュアンスが感じられる。すなわち、「走り込む」は「繰り返し走って練習する」という反復行為と、(競技、健康などの)目標が達成できる状態を目指して、という両方の意味を持つ、と考えられる。

中国語には、このような微妙なニュアンスを表す単語がないので、そのままの内容を訳すしかない。従って、「走る」は中国語で「跑步」であるが、「繰り返し走って練習」「限界まで走る」という意味の「走り込む」は、そのまま中国語の「拼命（練習）」と訳される。つまり、「走り込む」は「拼命（練習）跑步」と、「走り」は「跑步」と意味的に対応するが、「こむ」は「拼命（練習）」と意味的に対応するわけではない。ただし、同じニュアンスを表すため、「走り込む」の「こむ」と、「拼命（練習）跑步」の「拼命（練習）」は、文の中で同じ働きをしていると言えるだろう。

5. 今後の課題

本稿では、多数の複合動詞のうち、数量的には上位に挙がり、母語話者によく使われ、学習者にとって習得困難な項目となる複合動詞「～こむ」に注目し、中国語訳との対照や分析を行ったが、同じように「内部移動」の意味を持つ後項詞類には、他にも「～こめる」「～いる」「～入れる」などがある。それぞれの特徴を分析し、中国語との対応関係を考察することを、今後の課題としたい。

参考文献

- 影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房
- 黒羽栄司（1995）『日本語で学ぶ日本語中級』大修館書店
- 国際学会友日本語学校（2000）『進学する人のための日本語中級』凡人社
- 斎藤雅子（2013）「現代日本語複合動詞の諸相—日本語教育の観点から—」大東文化大学修士学位論文
- 大連外国語学院／大連外国语学院<新日汉辞典>编写组编（1980）『新日汉辞典』辽宁人民出版社
- 張志凌（2014）「複合動詞「～こむ」の意味体系—中国語との対照的視点から—」東京外国語大学博士學位論文
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『中級日本語』凡人社
- 新美和昭・山浦洋一・宇津野登久子（1987）『外国人のための日本語例文・問題シリーズ 4 複合動詞』荒竹出版
- 松田文子（2004）『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して—』ひつじ書房
- 睦俊秀（2012）「「程度進行」の意味を持つ複合動詞「V1+こむ」の意味と構造に関する考察」『コーパスに基づく言語学教育研究報告』8, 峰岸真琴・稗田乃・早津 恵美子・川口裕司（編）, pp.185-208. 東京外国語大学大学院総合国際学研究院グローバル COE プログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」
- 姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房
- 北京／對外經濟貿易大学・北京／商務印書館・小学館共同編集（2002）『日中辞典第2版』小学館

北京商務印書館・小学館・依藤醇・小川文昭・三宅登之（編）（2002）『中日辞典第2版』小学館

何志明（2010）『現代日本語における複合動詞の組み合わせ—日本語教育の観点から—』笠間書院

引用文献

小池真理子『無伴奏』

シルヴィア・マウルターシュ・ウオルシュ『死・ふたたび』横山啓明訳

高橋がなり『がなり流』

リチャード・ヘル『go now』滝澤千陽訳

ロナルド・ビッグズ『大列車強盗の痛快一代記』藤井留美訳

（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）